

公共建築物への文化性導入に関する 基礎的研究

建築学科 教授 原 坦
同 助手 岩下 肇
東海大学 助教授 山崎 俊裕

1. はじめに

今日、社会が量的充足から質的充実を求める流れに移行し、明治初頭から続いてきた近代化政策や機能主義・合理主義的思想が見直され、真に感性や創造性、人間性、個性等を重視した環境づくりが求められている。このことは、換言すればボトムアップではなくトップアップ的指向が時代の流れの中で強く意識されるようになってきているとみることもできる。

建築計画・都市計画の分野においては、良好な町並み形成や地域づくり、さらには地域に密着した人間性あふれるコミュニティ形成を図るための視点として、「景観」・「文化性」の概念を各種計画・設計プロセスに積極的に反映しようという機運が高まっている。具体的には、景観行政における都市デザインガイドライン・マニュアルの策定や、景観条例の制定、景観賞の表彰制度や助成制度の充実等が挙げられ、また大規模な都市スケールの開発においては、公的集合住宅団地・学校計画にマスターアーキテクト方式とデザインコードの導入等が試みられている。

優れた公共建築物の外観・内観デザインは、地域の良好な町並み景観形成を創出・誘導する上で核となるものであり、公共建築物を媒介としながら施設内外とその周辺環境構成要素に対して積極的に文化性を導入することは、今日的な社会の要請に対して大きな意味を有すると考えられる。

2. 研究概要と目的

本研究では以上のような背景から、まず第一に、我が国における公共建築物への文化性導入の実態を把握することを大きな研究目標に掲げ、その一端として景観行政の動向について景観条

例・景観賞・助成制度等の制定状況を把握すると同時に、優れた外観・内観デザインや環境構成要素を有する国内の公共建築を具体的な研究対象に取り上げ、これらの中から特色ある事例を抽出・整理し、これらを可能な限り実踏調査することを研究目的とした。

また第二に、実踏調査で収録した写真・図面・ビデオやヒアリングをもとに、公的集合住宅と公立学校を中心に、ユーザからみた身近な都市・建築環境の景観評価や場の嗜好に関する意識調査を実施し、都市・建築計画に関わる専門家に対しても同様な視点から調査を行い、これらの結果を相互に比較分析・考察することにより、都市デザインや建築デザインにおける「景観」の視点や「文化性導入」の概念が、計画・設計プロセスにどのように寄与し得るかについて実証的に検討することを研究目標とした。

3. 調査概要と成果

本報告は、これまでの一連の継続研究の一部を構成するものであるが、現時点まで実施してきた調査概要と得られた成果を以下に総括して示した。

1) 全国地方自治体の景観賞表彰制度の動向に関する実態調査

本調査では、全国148の地方自治体を対象として、景観賞表彰制度導入の有無、制度導入の年度、事例集作成の有無、導入の功罪、表彰対象の事例等について、関連資料の収集と施策担当者に対するアンケート調査を実施した。その結果、先進的な37自治体の景観賞表彰制度の動向についてその実態を把握することができた。また、本調査結果から、景観賞表彰制度の対象用途の内、特に集合住宅、学校につい

表-1 景観賞受賞公共建築物の外観イメージ評価と受賞理由

デザインイメージ	建物構成要素	No.	典型サンプル名称	受賞理由に使用された形容詞	
個性	印象的な II	1) 傾斜した壁面	44	北九州国際会議場	緊張感のある ダイナミックな 印象的な 斬新な
		2) 細かく分割された形態的要素	2	湘南台文化センター	ユニークな 新鮮な 刺激のある
個性	印象の薄い	3) 金属質や彩度の高い壁面	18	秋葉台文化体育館	緑濃い 質の高い 優れた
		4) ドーム・陸屋根・傾斜屋根等の混合型の屋根形態			
活動性	静かな II	1) 陸屋根	13	相模原南消防署	景観賞受賞無し(相模原市事例)
		2) 横連窓や均等に割付られた窓	17	盛岡地方家庭裁判所	風格のある
活動性	にぎやかな II	3) 直立体を強く意識させる形態	19	相模原市立中央中学校	景観賞受賞無し(相模原市事例)
		1) 白色の壁面	5	盛岡市中央民館	静かな 伝統的な 風格のある 魅力ある
親密性	親しみにくい II	2) 石質の壁面材料	8	白鹿記念酒造博物館	変化を与える 快適な
		3) 傾斜屋根	43	浜松市博物館	美しい
親密性	親しみのある II	1) 金属質や彩度の高い壁面	18	秋葉台文化体育館	新鮮な 親しみやすい
		2) 細かく分割された形態的要素	2	湘南台文化センター	記載無し
開放性	狭苦しい II	3) 外講の植栽が少ない	31	市民文化会館	記載無し
		1) 切り妻・寄棟等の傾斜屋根	46	岩手県菅松園東アパート	和風の 現代的感覚の 緑豊かな
開放性	広々とした II	2) 2・3階の高さで小規模の建物	48	盛岡市先人記念館	歴史を物語る
		3) 外講の植栽が多い	22	浦添市立図書館	小さな 風景画を感じる 楽しい
力量性	重厚な II	1) 狭い外講	24	尼崎田園郵便局	記載無し
		2) 周囲の樹木等が迫っている	36	長野市物産館	記載無し
力量性	軽快な II	1) 広いオープンスペースを有する外講	29	名古屋国際会議場	記載無し
		1) 白色の壁面	45	豊田産業文化センター	記載無し
力量性	重厚な II	2) 煉瓦色の壁面	41	京都市国際交流会館	風格のある のびやかな 広々とした
		3) 黒色の屋根	8	白鹿記念酒造博物館	伝統的な 風格のある 魅力ある
力量性	軽快な II	4) 横長のプロポーションの形態	52	名古屋市政資料館	記載無し
		1) 白色の壁面	37	北九州いちいがし団地	垂直性の強調された
力量性	軽快な II	2) 傾斜屋根	46	岩手県菅松園東アパート	変化を与える 快適な
		3) 縦長のプロポーションの形態	14	浜松市消防団第一分団	小さな 風景画を感じる 楽しい

典型事例は、各因子軸において因子スコアの高い事例各3例づつを表示
受賞理由中に使用された形容詞の表示は、調和した、ランドマークになっている等の周辺環境との関係を示すものを除く

て、「景観」・「文化性」に関わる評価視点・尺度を得ることができた。

2) 集合住宅団地の景観意識に関する調査

本調査では、多摩ニュータウン集合住宅団地の景観意識とその評価構造を明らかにするため、公的集合住宅団地居住者536名(ノナ由木坂、リベレ向陽台、諏訪団地)と、建築・都市計画に関わる専門家集団20名に対して写真を用いたアンケートによる景観意識調査を実施した。ここでは景観としての「美しさ」に関わる評価を、団地別、年齢階層別、居住年数別、居住者と専門家別に比較分析することにより、景観評価に影響を与える環境構成要素の特性、評価の意味構造等について、設計・計画上の有用な知見を得ることができた。なお、この成果の詳細については、本年度9月の建築学会大会において報告する予定である。

また、上記の調査と関連して、本年度はさらに、多様な景観構造が期待できる熊本アートポリス集合住宅団地を中心とした九州圏域の公的集合住宅団地景観シーンを実地調査により収録し、その特性について定性的に分析した。

表-2 居住者アンケート配布・回収結果

集計項目	対象団地		リベレ向陽台			居住者全体
	ノナ由木坂	諏訪団地	分譲	賃貸	小計	
a.住戸数	252	640	205	380	585	1477
b.配布数	157	304	88	105	193	654
c.有効回答数	128	242	74	92	166	536
d.有効回答数/住戸数	50.8%	37.8%	36.1%	24.2%	28.4%	36.3%
e.有効回答数/配布数	81.5%	79.6%	84.1%	87.6%	86.0%	82.0%
f.回答者平均年齢	43.2	44.8	43.6	40.1	41.7	43.4
g.回答者平均居住年数	1.6	11.3	5.3	4.5	4.9	7.0

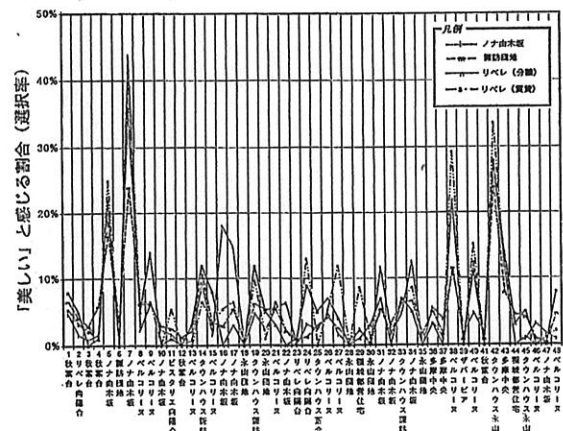


図-1 <美しさ>についての景観評価(調査団地別)

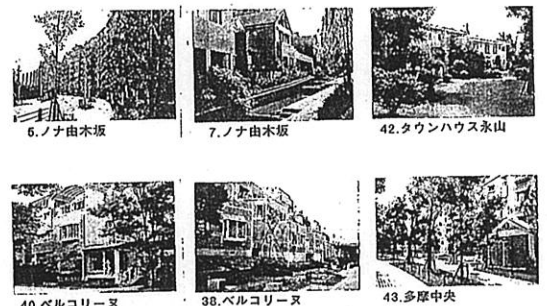


図-2 「美しい」と感じる割合の高い景観シーン

表-3 調査実施集合住宅

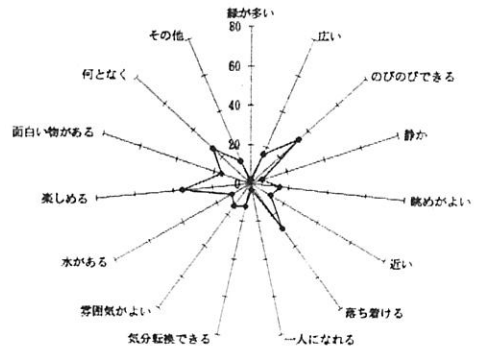
団地名
1 帯山A団地
2 市営新地団地A
3 市営新地団地C
4 県営竜蛇平団地
5 県営保田窪団地第一団地
6 市営詫麻団地
7 宇都団地
8 けやき団地
9 人吉市営西瀬団地
10 袴越集合住宅
11 香椎集合住宅
12 シーサイドもち



図-3 児童によってポケットカメラで撮影された環境・場

3) 特色ある学校環境構成要素に関する調査

本調査では、まず建築雑誌・文献・各種報告書等をもとに、全国の特色ある学校建築計画事例について、特色項目の分類・整理・抽出を行い、データベースを作成した。次にこのデータベースを用いて各特色項目の集計・分析を行い、教育面での特色及び、学校環境構成要素に関わる特色項目について有用な知見を得た。



自分教室（全学年）

4) 児童からみた学校環境・場の嗜好に関する調査研究

本調査では、上記3)で得られた成果をもとに、優れた建築デザイン、文化性、環境構成要素を有する学校を選定し、ユーザである児童がこれらの学校内外の環境・場を具体的にどのように認知し嗜好しているかについて、使い捨てポケットを用いた児童による写真撮影とアンケートによる意識調査から把握する試みを行った。ここではまず、A)土着的な田園景観と建築環境を有する笠原小学校（埼玉県）、B)都市型景観を構成するインテリジェントスクールとして名高い上野小学校（台東区）、C)ニュータウンに立地する長峰小学校（稲城市）の2年～6年生児童に対してこれらの調査を実施した。その結果、本調査内容・方法により、従来困難であった児童の環境に対する認知や潜在的な場の嗜好を発達段階ごとに捉えることが可能であること、本調査方法が環境心理学的研究方法としてかなり有効であること等が、現時点において確認できた。なお、これらの詳細については、本年度の建築学会大会において報告する予定である。

図-4 児童からみた学校環境・場の嗜好に関する調査結果（一部：嗜好理由）

表-4 調査実施学校施設（九州地方）

施設名	所在地
1 こひつじ幼稚園	福岡市
2 西里小学校	熊本県小国町
3 東陵高等学校	熊本県熊本市
4 球磨工業高等学校	熊本県人吉市
5 蘇陽高等学校	熊本県蘇陽町
6 加世田小学校	鹿児島県加世田市
7 佐田小学校	鹿児島県肝属群
8 城南中学校	佐賀県佐賀市
9 有田工業高等学校	佐賀県有田市
10 五ヶ瀬中高等学校	宮崎県

また、これらの調査と関連して、先の九州地方での集合住宅団地景観の実踏調査と平行して、特色ある複数の学校建築事例について、学校内外の施設環境調査と写真撮影、ヒアリング調査を実施し、これらについて定性的な分析を行った。